

否定語句を使った表現

この教材では、接続詞・形容詞・副詞の3つの品詞について学習します。今回は、まず副詞の用法を確認していきましょう。

ポイント

●副詞のはたらき

- 副詞は、名詞以外のはほどの品詞でも修飾することができ、句や節を修飾することもある。

Ex. Please drive *more carefully*. → 動詞を修飾（もっと注意して運転してください。）

Use it *only* in an emergency. → 副詞句を修飾（緊急時のみお使いください。）

Evidently he was [He was *evidently*] telling a lie. → 文全体を修飾

（明らかに彼はうそをついていた。）

●副詞の位置

- 副詞を置く位置は、文頭・文中・文末などさまざまであるが、意味や用法によっておおよそ位置は決まっている。

▶動詞を修飾する場合

原則として一般動詞の前, be 動詞・助動詞の後ろ	<ul style="list-style-type: none"> ・否定'を表す ・頻度'を表す 	not, hardly, seldom, never など always, often, sometimes, seldom など
原則として文末	<ul style="list-style-type: none"> ・場所'を示す ・時点'を示す 	here, there, in Tokyo など now, today, at night など

※ ただし、意味を強調したい場合には文頭に置くこともある。文頭に置かれると、その後の語順に倒置が起こることがある。

▶形容詞や副詞などを修飾する場合

原則として修飾する語のできるだけ近くに置く（*very beautiful*, *completely different* など）

チェック

空所に入る最も適切なものを選びなさい。

- (1) He spoke so quietly that we could () hear him.
- ① almost ② rarely ③ hardly
- (2) It is said that the poor are not () unhappy.
- ① always ② hardly ③ seldom
- (3) Don't be afraid of snakes. Not () snake is poisonous.
- ① either ② every ③ all
- (4) "Are your parents traveling with you?" "No, not (); Mother only."
- ① each ② either ③ both
- (5) John didn't go to the party, and Mary didn't either. That means ().
- ① either of them didn't go to the party
② neither of them went to the party
③ John and Mary have never been to the party together

解答

- (1) ③ (2) ① (3) ② (4) ③ (5) ②

解説

- (1) 「彼はとても静かに話したので、ほとんど聞き取れなかった。」

全体は〈so ~ that …〉「とても～なので…」の構文。文意から、that 以下は「彼の言うことが聞こえなかった」と否定の意味になると推測できる。rarely も hardly も否定の意味を表すが、rarely は「回数が少ない；めったに…ない」という‘頻度’を表し、hardly は「レベルが低い；ほとんど…ない」という‘程度’を表す。ここでは「ほとんど聞き取れない」という‘程度’を表しているので③ **hardly** が正解。

次の副詞は‘準否定語’と呼ばれることもある。セットで覚えておこう。

- ▶ 「めったに…ない」‘頻度’を表す → rarely / seldom
- ▶ 「ほとんど…ない」‘程度’を表す → hardly / scarcely

- (2) 「貧しい人は必ずしも不幸とは限らないと言われている。」

the poor は〈the + 形容詞〉で「～な人々」を表す用法で、「貧しい人」を表す。that 節の中は、空所を除くと「貧しい人は不幸ではない」という意味だが、空所に always を入れると、always が表す「いつも；常に」という意味を not が否定し、「貧しい人はいつも不幸というわけではない〔必ずしも不幸とは限らない〕」という意味を表す。② **hardly** と③ **seldom** は否定の意味を含み、not **hardly** とは普通言わない。また、**seldom** は‘回数・頻度’を表す語なのでここには合わない。したがって、① **always** が正解。

! 注意

部分否定

「すべて」「完全に」「両方とも」などの意味を表す語の前に not を置いてその意味を否定し、「すべて〔完全に；両方とも〕～とは限らない」の意味を表すことを**部分否定**と言う。

Ex. *Not all* the students were absent with flu.

(すべての生徒がインフルエンザで欠席だったわけではない。)

“Do you see what I’m saying?” “*Not exactly.*”

(「私の言うことがわかりますか。」「いいえ、あまり。」)

《部分否定の文でよく使われる語》

all, both, every, always, entirely, exactly, necessarily など

(3) 「ヘビを怖がってはいけません。すべてのヘビに毒があるわけではありませんから。」

①の形容詞の either は「2つのもののうちのどちらか」という二者択一を示すことばで、not を either の前に置いて組み合わせると「(2つのうちの) どちらも…ではない」を表す。ここでは特定の2匹のヘビではなく一般的なヘビの話をしているので合わない。②の every と③の all は、どちらも直前に not を置くと「すべてが…とは限らない」という部分否定を表すが、every の後には可算名詞単数、all の後には可算名詞複数が来るので、ここでは② every が正解。

(4) 「『ご両親も一緒にご旅行中ですか。』『いいえ、2人とも一緒ではありません。母だけです。』」

② either は(3)でも説明したように not と組み合わせると「(2つのうちの) どちらも…ではない (= neither)」を表す。ここでは空所の後で「母だけです」と答えていることから、「両親の両方とも一緒というわけではない」の意味になると考え、③ both を入れる。both は「(2つのうちの) 両方とも」を表す語で、前に not を置いて both を否定すると「両方とも…というわけではない」という部分否定となる。

(5) 「ジョンはパーティーに行かなかったし、メアリーも行かなかった。つまり、2人ともパーティーには行かなかったということだ。」

最初の文から「ジョンもメアリーもパーティーに行かなかった」ことがわかる。「(2つ〔2人〕のうちの) どちらも…しない」を表す場合には× either ~ not … の語順をとることはできず、neither を使って表す。したがって②が正解。③は「ジョンとメアリーはパーティーへ一緒に行ったことがない」の意味になり、ここには合わない。

数量詞を使った表現

今回は、‘数’や‘量’を表す形容詞について学習します。

ポイント

●数量詞とは

- ・数や量を表すことばのことで、英文中では、形容詞や(代)名詞としてはたらく。

数・量を表す形容詞の後に続くことができる名詞の種類と形

	可算名詞	不可算名詞
some	単複どちらも○	○
many	複数のみ○	×
much	×	○
all	単複どちらも○	○
most	複数のみ○	○
both	複数のみ○	×
few	複数のみ○	×
little	×	○

- ・上記の形容詞は(代)名詞として用いることもある。その場合には、後ろに〈of + the または代名詞の所有格 + 名詞〉が続く。〈the + 名詞〉の部分us や them のような代名詞になることもある。

some students = some of the students

most people = most of the people

チェック

空所に入る最も適切なものを選びなさい。

(1) () students in the university don't even know how to talk to teachers.

- ① Most of ② Some ③ Some of

(2) () people take their holidays in the summer.

- ① Almost ② The most ③ Most

(3) () wish that we knew how to spend time more efficiently.

- ① Almost of us ② Nearly all of us ③ The most of us

(4) () my friends live in Chiba.

- ① Almost ② Most ③ Some of

解答

(1) ② (2) ③ (3) ② (4) ③

解説

(1) 「大学には教師に対する話し方すら知らない生徒もいる。」

①と③の Most および Some は、直後に of があることから代名詞であることがわかる。代名詞の場合、その後は〈of + the または代名詞の所有格 + 名詞〉の形になるが、空所の後には名詞が直接続いているので、空所には形容詞が入ると考えられる。したがって② Some が正解。

(2) 「たいていの人は夏に休暇を取る。」

①の Almost は副詞で、普通、その後には名詞は続かない。(続くことができる名詞は all や every- のつく代名詞などに限られる。) ②の The most は形容詞 many の最上級と考えられるが、単に「最も多い人々」としたのでは意味が通じない。ここでは③ Most を入れて「たいていの人々」を表すようにする。

(3) 「私たちのほとんどはもっと効率的な時間の使い方がわかったらいいのにと願っている。」

①の Almost は副詞なので、その後に〈of + (代)名詞〉を続けることはできない。③の The most は、この形だと「最も多くのもの〔人〕」を表す名詞となるが、「私たちの中の最も多くの人」と考えると意味が通じない。Most of us なら「私たちのほとんど」の意味の正しい表現となる。②の Nearly は副詞だが、all や every- で始まる代名詞を修飾して「ほとんど～」の意味を表すことができる。したがって、② Nearly all of us が正解。

! 注意

名詞・代名詞を修飾する副詞

副詞の中には名詞や代名詞を修飾するものもあるが、主に次のような場合・種類に限られる。

- ・ almost, nearly → 代名詞の all, every- で始まる代名詞、または‘数’を示す語の前に置いて「ほぼ～」の意味を表す
- ・ even, only → (代)名詞の前においてそれぞれ「～でさえ」「～だけ」の意味を表す
- ・ alone → (代)名詞の後ろにおいて「～だけ」を表す
- ・ else → 代名詞の後ろにおいて「～の他に」を表す

(4) 「私の友人の何人かは千葉に住んでいる〔私の友人の中には千葉に住んでいる人もいる〕。」

空所の後が〈代名詞の所有格 + 名詞〉の形になっているので、③ Some of を入れて、「私の友人の何人か」の意味を表すようにする。②は Most of となっていれば「私の友人のほとんど」の意味になるが of がないので不可。

！ 注意

all (of) the + 名詞 / both (of) the + 名詞

all と both については、その後に〈the または代名詞の所有格 + 名詞〉が直接続くことがある。したがって、次の3つのパターンの表現が可能である。

- all people / both parents
- all of the people / both of my parents
- all the people / both my parents

参考 all the + 不可算名詞

all の後に不可算名詞を続けて「すべての～」を表す場合には、〈all of the + 名詞〉か〈all the + 名詞〉の形をとり、× 〈all + 名詞〉とは普通ならない。

Ex. I lost *all the money* (× all money) I had.

(私は持っていたお金を全部なくした。)

ただし、一定の期間を持つ‘時’を表す語が続いて「～の間じゅう」を表す場合には〈all + 名詞〉となることが多い。

Ex. I stayed with my aunt *all summer*. (私は夏じゅうおばの家に滞在した。)

接続詞とさまざまな品詞

今回は、接続詞の使い方を、文の構造や意味の上から学習します。

ポイント

●接続詞のはたらき

- ・接続詞が文頭に来る場合には、英文は次のような形をとる。接続詞が導く節（＝副詞節）は、主節を説明するはたらきをする。

接続詞 + 〈主語 + 動詞〉 ～, 〈主語 + 動詞〉 …

副詞節

主節

主節と副詞節は入れ替わってもよい。その場合、主節と副詞節の間のコンマは不要。

●接続詞の意味

- ・副詞節を導く接続詞は、主に次のような意味を表す。

理由・原因	because / since / as
時	when / while / before / after / until / as soon as
譲歩	though / although
条件	if / unless

！注意

2語以上で接続詞のはたらきをする語句

as soon as S V … (…するとすぐに), in order that S V… (…するために), as if S V… (まるで…のように) など、2語以上の語句がまとまって接続詞のはたらきをすることがある。

Ex. I'm happy *as long as* you are here. (あなたがここにいさえすれば私は幸せです。)

I'll finish my homework *by the time* you come home.

(あなたが帰宅するまでには宿題を終えるつもりです。)

チェック

空所に入る最も適切なものを選びなさい。

(1) () she studied harder, her grades were low.

- ① Since ② Even ③ Although

(2) Cold chicken is delicious () salad.

- ① when eaten with ② when eating with ③ with when eaten

(3) I'm not going to sleep tonight () I finish my homework.

- ① by ② until ③ since

(4) There was nothing but water () the eye could see.

- ① as long as ② as soon as ③ as far as

(5) Let me know at once () there is an accident.

- ① in case ② even though ③ unless

解答

- (1) ③ (2) ① (3) ② (4) ③ (5) ①

解説

- (1) 「彼女は一生懸命勉強したけれど、成績は低かった。」

空所の後にもコンマの後にも〈主語＋動詞〉があるので、空所には接続詞が入る。② Even は副詞で、節を導くことはできないので不可。「彼女は一生懸命勉強した」と「彼女の成績は低かった」の関係を考えて、「譲歩・逆接」を表す③ **Although** が正解。

- (2) 「冷製チキンはサラダと一緒に食べるとおいしい。」

選択肢に when が含まれているので、空所から後は when が導く節になりそうだが、各選択肢には動詞がない。when が導く節では、when 節の主語が主節の主語と同じであり、動詞が be 動詞の場合には、when 節の〈主語＋ be 動詞〉が省略されることがある。①と②に主節の主語と be 動詞を補うと、①は when cold chicken is eaten with salad (冷製チキンがサラダと一緒に食べられると) となり、意味も通じる。したがって① **when eaten with** が正解。

! 注意

副詞節中の〈主語＋ be 動詞〉の省略

when, while, though, if などが導く副詞節の中の主語が主節の主語と同じで、動詞が be 動詞の場合、副詞節の〈主語＋ be 動詞〉が省略されることがある。

Ex. The material emits poisonous gas when (it is) burned.

(その物質は燃えると有毒なガスを放出する。)

Don't speak while (you are) eating. (食べながら話してはいけません。)

- (3) 「今夜は宿題を終えるまでは眠らないつもりだ。」

空所の前後に〈主語＋動詞〉があるので、空所には接続詞が入る。①の by は前置詞なので、空所には入らない。② until は「～までずっと」、③ since は「～して以来」または「～なので」の意味を表す接続詞の用法がある。「私は今夜眠らないつもりだ」と「私が宿題を終える」の関係を考えて、「私は宿題を終えるまでずっと眠らないつもりだ」となるのが自然。したがって、② **until** が正解。

- (4) 「見渡す限り、水しかなかった。」

まず、②の as soon as は「…するとすぐに」の意味で、この文には合わない。① as long as と③ as far as はどちらも日本語にすると「…する限り」のような意味になるが、as long as は「時間の限度；期間」や「条件」を表し、as far as は「距離の限度」や「範囲；程度」を表すという違いがある。ここでは「目の届く限りでは」という「距離の限度」を表していると考えられるので、③ **as far as** が正解。

❗ 注意

as far as S V … と as long as S V …

as far as と as long as は、どちらも日本語では「…する限り」というような意味を表すが、使い方は異なるので注意しよう。

▶ as far as → ‘距離的な限度’や‘範囲の限度’を表す

Ex. The hills were covered with snow *as far as* the eye could see.

(丘は見渡す限り雪で覆われていた。)

As far as I know, he is an honest person.

(私の知っている限り (→範囲) では、彼は正直な人間です。)

▶ as long as → ‘時間的な限度’や‘条件’を表す

Ex. I'm happy *as long as* you are here.

(あなたがここにいる限り (→ここにいる間は) 私は幸せです。)

I'm sure you'll win *as long as* you do your best. (全力を尽くせばきっと勝ちますよ。)

(5) 「もし事故があれば、すぐに私に知らせてください。」

選択肢はすべて接続詞で、意味は① in case 「もし…ならば；万一…の場合は」、② even though 「たとえ…だとしても」、③ unless 「…の場合をのぞいて；もし…でなければ」。文の前後のつながりから、「もし事故があれば知らせてください」となるのが自然なので、① in case が適切。

注意したい語順

今回は、注意が必要な英語の語順について学習します。1つ1つ問題を解きながら、文法問題や読解問題でよく目にする、間違えやすい英語の語順を学んでいきましょう。

チェック

空所に入る最も適切なものを選びなさい。

- (1) This area relies on income from oil, and ().
- ① so does Florida ② also is Florida ③ so is Florida
- (2) My wife usually doesn't drink coffee at night, and ().
- ① I do neither ② neither do I ③ neither I do
- (3) Never in my dreams () imagine that I would end up like that.
- ① did I ② had I ③ I did ④ I had
- (4) He made () that we were very tired.
- ① so a long speech ② such a long speech
- (5) () in three years?
- ① Do you think how tall my daughter will be
② Do you think will how tall my daughter be
③ How tall do you think my daughter will be
④ How tall do you think will my daughter be

M · E · M · O

解答

- (1) ① (2) ② (3) ① (4) ② (5) ③

解説

(1) 「この地域は石油からの収入に依存していて、フロリダも同様だ。」

各選択肢の語句から、「この地域は石油からの収入に依存している」という前半の内容に続けて「フロリダもそうだ」となると考えられる。肯定文に続けて「～もまたそうである」を表す場合、倒置が起こり、〈so + 助動詞 + 主語〉または〈so + be 動詞 + 主語〉の語順となる。ここでは、前半の肯定文の動詞が一般動詞なので助動詞を用い、① **so does Florida** が正解。

(2) 「妻はふだん夜にコーヒーを飲まないし、私も飲まない。」

各選択肢に *neither* (～もまた…ない) が含まれているので、前半の「妻はふだん夜にコーヒーを飲まない」に続けて、「私も飲まない」の意味になると考えられる。否定文に続けて、「～もまた…ない」を表す場合にも倒置が起こり、〈neither + 助動詞 + 主語〉または〈neither + be 動詞 + 主語〉の語順となる。したがって、② **neither do I** が正解。

❗ 注意

so / neither [nor] の後の倒置

▶ 肯定文 + 〈(and) so + 助動詞 + 主語〉または 〈(and) so + be 動詞 + 主語〉

→ 「～もまた…である」

Ex. I'm good at playing the clarinet, (and) so is my sister.

(私はクラリネットが得意で、妹もそうです。)

▶ 否定文 + 〈and neither + 助動詞 + 主語〉または 〈and neither + be 動詞 + 主語〉

→ 「～もまた…でない」

Ex. I'm not good at playing the clarinet, and neither is my sister.

(私はクラリネットが得意ではないし、妹もそうです (=得意ではありません)。)

・ *neither* の品詞は副詞なので、正式には *neither* が節を導くことはできず、*and neither* …と *and* が必要。

・ *and neither* の代わりに、接続詞の *nor* が使われることがある。

・ *neither* の代わりに *not ~ either* を使うこともでき、実際にはその方が普通。

and neither is my sister ≒ *and my sister isn't, either*

(3) 「私はまさか自分があんなことになるとは思ってもみなかった。」

文頭の *Never* に注目。否定の意味を強調するために否定語句を文頭に置くと、その後の語順に倒置が起こり、〈助動詞 + 主語 + 動詞〉の語順になる。空所の直後の動詞が原形なので、正解は① **did I**。②が正解ならば、空所の後が *imagined* と過去分詞でなければならない。なお、*hardly* や *little* などの否定に準ずる語を文頭に置いて倒置となる。

Ex. *Little did I dream* that I could pass the national exam.

(その国家試験に合格できるなんて夢にも思わなかった。)

(4) 「彼の話はとても長かったので、私たちは非常に疲れていた。」

「とても～なので…」を表す〈so ~ that …〉か〈such ~ that …〉のどちらかが正解だが、〈so ~ that …〉構文の so の後に〈冠詞 + 形容詞 + 名詞〉が来る場合には、形容詞が冠詞の前に来て、〈形容詞 + 冠詞 + 名詞〉の語順になる。したがって、①の語順は誤り。② **such a long speech** が正解。

❗ 注意

〈so [such] ~ that …〉の‘～’に〈a [an] + 形容詞 + 名詞〉が入る場合の語順
形容詞の such は〈a [an] + 形容詞 + 名詞〉の前に置くことができるが、副詞の so は置くことができない。so の直後に形容詞が来て、〈so + 形容詞 + a [an] + 名詞〉の語順となる。

Ex. He is such an honest boy that I like him very much.

(彼はとても正直な少年なので私は彼が大好きだ。)

= He is so honest a boy that I like him very much.

注：・ただしこれは堅い言い方で、such を用いて表す方が普通。

・名詞が複数形の場合には so は用いられず such を用いる。

(× so honest boys / ○ such honest boys)

(5) 「私の娘は3年後にはどれくらいの身長になっていると思いますか。」

think, suppose, believe などの動詞を使って「何〔誰〕が…と思いますか。」のようにたずねる場合は、〈疑問詞 + do you think [suppose / believe] …?〉の形になる。think [suppose / believe] の後ろに続く部分は平叙文の語順になることに注意。したがって、正解は③。

❗ 注意

What do you think …? と Do you know what …?

疑問詞で始まる疑問文には Yes/No では答えず、問われた内容を具体的に答える。〈疑問詞 + do you think …?〉の形で始まる疑問文に対しても、答えは Yes/No にはならない。

Ex. *What do you think* he wants to do? — I think he wants to play baseball.

(「彼は何をしたいかと思っていますか。」「野球をしたいかと思っています。」)

例えば「彼は何をしたいか知っていますか」と問う場合には、次のように Do you know で始まる疑問文となる。これには Yes/No で答える。

Ex. *Do you know* what he wants to do? — Yes, I do. He wants to play baseball.

(「彼が何をしたいかわかりますか。」「ええ。彼は野球をしています。」)